

福澤諭吉寓言



かき娘



明治五年
壬申九月

壬申八月
服部五年

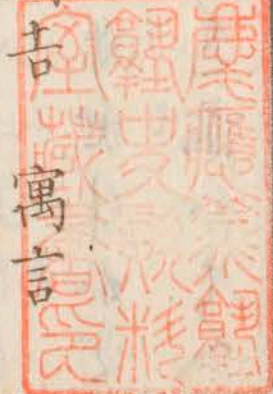
かきめ

蘇軾詩言



かきめ

福澤諭吉



或る富家小女子誕生一わたりとち申あふく玉
の如き子あまども生えつき眉毛あし初生のこ
となきばかり産つ人の目ふもつらどおひく月
日をわたりとちや八九月もたち前歯一二枚づ
ちあふふその色黒し尚又半年を過ぎ一年を
暮る内よ上下の歯もち揃ひ身小いづも墨

あてぬうたるやうふきども近鬼世間の人ハ尚
これふさうろづうむたよく目ふとするふと何
るも珍一かたぬむ一むふも何んふどいて噂
さるものも何む唯兩親ハとくううこむ成患
ひ世ふ不具あるものも多き中ふ眉毛のあはれも
のうてハ古来人の話ふ聞一こともなく何うつ
さへもドめてさへ一齒の黒きとハいふある因
縁なりやと人あむむひとり心を悩ませ一かど
もあふ親の欲目ふて眉毛ハ鬼も何き齒ハさへ

替るどにあらむ人あふなることなり人と
七八才のあらうでそだろ何げ初生齒ものさ
むめけかちり一ふ兩親の案ふ相違一二度目の
齒ハさへく黒く一て墨の如くうう一の如
光陰矢よりもさやくもや十四才の春ふ至り初
花のつがもあつる時節なちわふるやひい
とやさく何んきやうもさばるるむうその娘
盛りあまどもたぐいふ小せん齒と眉毛とあり
近鬼の人々も今ハあま見のが一ふせむ竊小

指さし噂して文盲連の口々小彼の娘の眉毛ハ
いづき小癩病の筋小相違も何るやぞ憐むべ
一玉の顔色も近き内ハ形を失まん其癩病ハ兎
も角も彼の齒の色も怪むべきあり何の家小ハ
いかなる前世の宿業何る斯る希代のかたじけ
ものを生るや親ハ代々たどん商賣くらんた
どんを高く賣るあらぬ飯を喰ひ報りさなく
バコ小又説何何の親達ハかひもちあきど
も近處の人火借金の断る小行きぞにいつも

ふくきつて白い齒を見せたることなり其
因果あり黒い齒の娘を生るあんなどて
でふだん小嘲り笑ふ何又洋學先生の説
小眉毛の麗るくくくくくくくくくくくく
を飾るため造物主の特小意を用ひしものあり
殊小眉毛ハ面の飾のきなり光線の過劇を防
ぐための要具あり人小眉毛なりときハ太陽の
光線を上より直小目小受け眼病の原因とふる
こと多し故小世界中ハ熱帯諸國日光の劇き

土地の人ハ眉毛濃く寒帯小近き地の住人ハ眉
毛薄くかくやで造物主の深き趣意ハ眉毛ふ
る小生きふが其痕跡もなれとハ天小見放さ
きたる罪人といふべしと親達ハこの説を聞く
ふつけても一段のかあしそを増し玉とも花と
もたとへん方かれ唯ひとり娘もや年頃ふも
及びたるふこの風情ふてハとて縁談の出来
べきふも何とむ医師を頼み神佛を祈りこの娘
の齒を白くし眉毛をもやま法も何とバ我身代

をつぶさハかろろ両親の命ふ替へても憚るこ
となしとて手を盡し術を極きども更ふ其甲斐
何るあとなし

かくて年月を経る小従ひ不思議なりう小世上
ふて此かたき娘の評判次第小うさうぎ二十才
むかりの年小至りりバ近處小くも全く忘さ
たるが如く一人きく噂する者も方れゆ名兩
親も心の中小悦び然るべき聳を求てこそ小家
を譲り其身ハ隠居しける小彼のかさき娘なり

者今ハ申介^{まうけ}に一家^{いっか}の細君^{ほそくん}とかり年来^{ねんらい}の心配^{しんぱい}
も消^きて跡^{あと}あかりしぞぞ嗚呼^{ああ}このむをめハ不幸^{ふこう}
ふして幸^{さい}を得^えたるものとつべー外國^{がいこく}ふて斯^{かく}
る不具^{ふぐ}ふ生^うきつきふバ生涯^{しやうがい}身の片^{かた}付^づも出来^{でき}ぬ
苦^{くる}ふるふ幸^{さい}ふして日本^{にっぽん}國^{こく}ふ生^うき同類^{どうるい}のかた
多^{おほ}けきバうや人^{ひと}なもふ一家^{いっか}の細君^{ほそくん}ともかり
ことなり此^こ婦人^{ふじん}不具^{ふぐ}ありとつんども既^{すで}ふ人の
妻^{さい}とかり上^うハその娘^{むすめ}の時^{とき}の由來^{ゆらい}を知^しるもの
そこれを不具^{ふぐ}なりといふ人^{ひと}知らむしてうき

見^みきバ鄰^{となり}の細君^{ほそくん}が眉^{まゆ}をろろひかたをろろをつけ
たる風^{ふう}ふ少^{せう}しも異^いなりふー唯^{ただ}ふふの細君^{ほそくん}ハ
刺^さ刀^{とう}を以^もて眉^{まゆ}の毛^けをきふ一の粉^{こな}を用^{もち}てかた
ろろをつけ錢^{せん}を費^つて手間^{てま}をかけんぢくある
顔^{かほ}ふ疵^{きず}を付^つて漸^やくかたふなりたる此^こ娘^{むすめ}ハ
生^うきつきろろへのかたをづつふ刺^さ刀^{とう}を用^{もち}
ひかたをろろを求^{もと}めをやとと世間^{せけん}のかた
ふ仲間^{なかま}入^いして錢^{せん}も手間^{てま}も費^つさうりとの相違^{さうい}
ろろのそ実^{じつ}ふ不思議^{ふしぎ}あるハ世間^{せけん}の婦人^{ふじん}なり髪^{かみ}

を飾り衣裳を装ひ甚だきハ借著^{かり}やでくみ
ゑを作^{つく}るあか^あ天然^{てんねん}ふ具^ぐなりたる飾^{かざり}をバか
げもなく打捨^{うちすて}てかた^{かた}者^{もの}の真似^{まね}をまるとハ
や^や勘^{かん}年^{ねん}なりことあ^あや^やほ^ほて身^み体^て髪^{かみ}膚^くハ
天^{てん}ふ受^うけたるものあり慢^{まん}ふこれ^{これ}ハ疵^{きず}付^つるハ天
の罪^{ざい}人^{にん}ともいふべきなり

終

福
17-1
著作

主師の衣裳を被ひてきたまひ借著しをくみ
るを伴ふふかふ天然お具なりたる師をばか
けりもなむ打掃てかたき者の具似をもちこ
り勤年なりことあるをやはめて身体髪膚
天お受けたるものありと慢ふこれお疵付る天
の罪人ともいふべきなり

福

17-1

著作